

教室だより

〒952-1209 佐渡市千種丙 178 番地 1

TEL : 0259 (63) 4156 (直) 4115 (代) FAX : 4117

http://kanai-es.sado.ed.jp E-mail : skotoba@sado.ed.jp

佐渡市立金井小学校
佐渡ことば・こころの教室

令和2年3月6日

第 865 号



家の外で遊んでいたら、子どもが「紫色の花が咲いているよ」と、教えてくれました。砂利しかなかった庭に、たくさんのオオイヌノフグリが咲いていました。もう春ですね。

3月は旅立ちの季節。期待と不安を胸に、新たな出発をする人も多くいることでしょう。「3歩進んで」も「2歩下がる」ことがあるかもしれません。その貴重な1歩を大事にして、少しずつ前に進んでいきましょう。心から応援しています。

JASPER って何？

佐渡総合病院 小児科
医長 岡崎 実

「碧玉」という宝石を JASPER というそうです。東京の六義園には佐渡の JASPER, 赤玉石が鎮座しています。

宝石も好きですが、私が知りたい JASPER は子どもたちが喜んでくれそうな新しい療育方法の名前です。JA・SP・E・R とは共同視・共同注意(ジョイントアテンション), ごっこ遊び(シンボリックプレイ), 親子のきずな(エンゲージメント), 生活習慣の調整(レギュレーション)の頭文字を並べたかっこいいプログラム名です。

神経発達症の子どもたちが抱えている問題に、関わる大人がきわめて少ない現代社会では生活適応が進みにくいということがあります。JASPER は少しでも彼らの社会適応に役立つよう、楽しみながら進められる簡便なプログラムのようです。これまで、私たちにはペアレントトレーニングがありました。嬉しいことに、またひとつ新しい宝物を手に入れることができそうです。



ケーキの切れない子どもたち⇒コグトレ

先日、『ケーキの切れない非行少年たち』(宮口幸治 著)を読みました。今年度、研修で児玉勝巳先生(元教室担当, 元金井小学校長)が講師をしてくださった際に紹介され、寄贈してくださった本でした。

児童精神科医の宮口幸治先生は、少年院にいる子どもと接する中で、ホールケーキを3等分や5等分にすることができない子どもたちに会います。他にも簡単な計算ができない、漢字が読めないなどの子どもたちにも多く出会います。そして、そのような子どもたちは、見る、聞く、想像するなどの認知機能が弱いと考えるようになりました。



そこで、それらを高めるトレーニングとして、「コグトレ」を提案されています。『コグトレ みる・きく・想像するための認知機能強化トレーニング』(宮口幸治 著)によると、「コグトレ (Neuro-Cognitive Enhancement Training: N-COGET) は、認知機能の強化を目的としたトレーニング」です。これらの力は学習の土台となる力だと考えられます。認知機能を高めることで、生活しやすくなる可能性があるとのこと。興味がありましたら、読んでください。(仲田)

参考

宮口幸治著『ケーキの切れない非行少年たち』新潮新書

宮口幸治著『コグトレ みる・きく・想像するための認知機能強化トレーニング』三輪書店

終了にあたって



保護者の声

ありのままのあなたが大好き

両津 A・H

吃音で初めて教室を訪れたのは年長の夏。小学生になって友達との付き合い方や家庭での声かけに悩んだ時期もありました。

教室で先生とのやり取りは娘にとってはとても居心地が良く、レクで他の生徒さんやボランティアの学生さんたちとの交流も良い刺激になったようです。

小学校卒業後も本人の希望で通級を続けさせて頂きましたが、今では吃音のある自分も受け入れ、目標に向かって頑張る自信に満ちた姿に成長しました。親としても嬉しく、この先の成長も見守っていきたいと思います。

長年、娘の心に寄り添い御指導くださった先生方に大変感謝しています。本当にありがとうございました。

終了児童の声

今日、口の訓練や音読ができてうれしかったです。これまでの火曜日には、「あいうえお」を言うときに、口の開き方がちがうこともあったけれど、今日は口をしっかりと開けて言えたのでうれしかったです。他にも、「きゃ」の言い方に注意して言えたのでよかったです。家でもたくさん練習して言葉づかいを気をつけたり、音読のときにすらすら読んだりしたいです。それと、学校でも字を今よりももっとていねいに書けるようになりたいです。苦手な教科をなくして、学力テストやふだんのテストで百点を目指して、お母さんや実家の人たちにも、たくさんほめられたいです。



ことば・こころメモリアル(ここメモ)

教室の「足」の贈り物

～寄贈されたスバルレオーネ、日産サニー～

昭和52(1977)年5月26日、佐渡ことば・難聴教室(現佐渡ことば・こころの教室)にスバルレオーネが寄贈されました。

新潟日報社様の創立35周年記念事業の一環として、公共活動団体に車を寄贈する運動がなされて、当教室に寄贈されたそうです。当時の「教室だより」を見ると、「教室の“誇り”として有効に利用させていただきます。」と紹介されています。

また、平成元年5月22日には、佐渡ことば・難聴教室に日産サニーが寄贈されました。佐渡ライオンズクラブ様からの寄贈でした。サニーについても、当時の「教室だより」を読むと、「白いピカピカの乗用車を目の前にし、ただ感謝の気持ちでいっぱいでした。」と書かれています。サニーに乗った思い出を現担当者の中村教諭は、「当時はまだパワーウィンドウではなく、手動の窓でした。相棒のサニーに乗って、巡回指導に向かっていたことが懐かしい。」と言います。

今はどちらの車もありませんが、当時からたくさんの人に支えられて、佐渡ことば・こころの教室が現在まで続いてきたエピソードです。



スバルレオーネ寄贈式



日産サニー寄贈式

お詫びと訂正 864号にて、紹介した「佐渡市立金井小学校」の表札は、中川政八先生の字ではありませんでした。お詫びして訂正します。